

一番正しい選択

欧阳笛雲

あつという間に、日本に来て2年が経ちました。2年前の幼かった自分と比べると、色々なことを経験して随分成長してきた気がします。同じ顔でも、全く別人で、大人になったと思います。人生の中で、どうしても選択をしなければならない分岐点があると思います。その選択は、将来の人生の方向を左右するような重大な決断だと思っています。日本に留学するという決断をした時はあまり深く考えていなかったのですが、今思えば、人生の中で一番正しい選択をしました。ここでは、この2年間の経験と自分の目で見た本当の日本をお伝えしたいと思います。

私は長安大学交通工程学院を卒業して、2014年1月、亜細亜友之会外語学院に進学しました。大学の時は、空港の誘導路と滑走路の舗装について勉強していました。先生方のご指導のおかげで、国立宇都宮大学大学院工学研究科の研究生と国立名古屋大学大学院工学研究科の院生に合格しました。三月末に、名古屋に引越し、大学院生の生活を正式にスタートします。以下は自分の受験経験を少し紹介させて頂きたいと思っています。

まず、理工系の学生だからと言って、日本語が必要ないと考えたら大間違いだと思います。理系の学生でも少なくN2合格が大学院受験の最低条件です。そのほかに、英語を勉強し続けて、TOEIC 或いは TOEFL を受験して、ある程度の点数を取らない理系の大学院に入るのは難しいかもしれません。殆どの学校は英語の成績が必要として、TOEIC700点或いは TOEFL65点以上あれば、合格する可能性が高くなると思います。理系の大学院生にとっては、英語の論文と書籍を読めないと、研究と勉強に大きな支障になります。

次、理工系の学生は事前に教授とコンタクトを取ることをお勧めします。研究計画書がある程度書いたら、履歴書と一緒に教授に送ってみて、面会のチャンスを得ることが一番大事です。研究計画書を作成するのに、毎日図書館に行って資料を探して自分なりの研究ノートを作成しました。研究計画書がある程度書いたら、必ず学校の先生に見せたほうがよいと思います。自分一人の考えにはどうしても思いつかないことがあって、色々な人の意見を聞いたほうが意外なひらめきをもらえるかもしれません。

受験準備の段階に、資料の作成から教授とのメールのやり取りまで、先生方に熱心に手伝って頂きました。先生方の助けがなかったら、出願さえできなかったと思います。これからも初心を忘れず、頑張っていきたいと思っています。本当にお世話になりました。

2016年3月